



広報第250号



神奈川県高等学校美術展奨励賞 美術部 岡本美樹(文理3-2)の作品
『何を描いているの?』F50/油彩

高等学校卒業証書授与式 令和元年度卒業生四七四名が 相洋を巣立っていきましました



和になって初めての卒業式は、折からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、非常に残念ながら卒業生諸君と教職員のみ参列での開催でした。

思えば今年度の卒業生四七四名が、大きな希望と少しの不安を抱きながら、保護者の皆さんに連れられ、初めてこの小峰の丘に登校した入学式は、春の優しい雨が降る中で執り行われました。そこから三年。この相洋の学び舎で、大きく成長した卒業生たちが、文字通り晴れの日に、自分たちだけで巣立っていくことは、とても感慨深く感じられました。

開式の言葉とともに、厳かに式が始められ、特進、文理、進学、一貫、商業とコース毎の総代に卒業証書が授与されました。一人ひとりの自信に満ちた大きな返事に入學時には無かった逞しさと頼もしさを感じます。

令和二年三月一日(日)、本校体育館にて、令和元年度普通科第七十二回・商業科第六十五回の卒業証書授与式が挙行されました。令

武井清忠理事長は祝辞の中で「これから、今までのように色々な人に見守られてきた道とは異なり、各自に責任ある行動が求められる。遠く険しい道が続くことがあるかもしれないが、決して諦めず、積極的に進むことが道を開く第一歩になる」と卒業生を励まされました。杉崎朗校長は式辞で、「これからの人生、皆さんが決め

たものならばそれは「幸せ」の人生。自分の幸福感は自分だけのもの。一人一人の相洋スタイル、これは、卒業した後も心の中で継続してほしい」と心温まるエールを贈りました。

続いて「私学連合会賞」、「産業教育振興会賞」、「学術奨励賞」、「皆勤賞」、「精勤賞」と表彰が続く中、久しぶりに「特別表彰理事長賞」として六名の生徒が表彰されました。理事長賞

とは、在校中三カ年で運動部文化部を問わず全国優勝を果たした生徒に贈られるものです。インターハイで大活躍し



た陸上競技部の選手六名ですが、特にクレイアーロン竜波さん(特進三)と高島咲季さん(特進三)の両名は、昨年世界大会でも活躍し、今夏のオリンピック候補選手として大いに期待がかかる所です。

最後に卒業生を代表した前生徒会長の後藤大輝さんの答辞では、これからの人生に対する決意と相洋高等学校に対する感謝が述べられ、参列する教職員から大きな拍手が送られました。

式が終わり、最後のホームルームを終えた卒業生たちは、見送る在校生たちがいない寂しさも感じさせず、多くの思い出を両手いっぱい抱え、晴れやかな顔でこの学び舎から羽ばたいて行きました。それぞれの希望を持って小峰の丘を下っていく若者たちが、学校を懐かしむ卒業生として、母校の生徒を教える教員として、また希望に燃えた新入生の保護者として、またこの小峰の丘に戻ってきてくれることを楽しみにしています。

また、三月十九日(木)には、相洋中学校の卒業式が行われました。高校同様コロナウイルスの影響で、保護者の皆さんも来賓の方々も参列しない少し寂しい会場でしたが、武井理事長、渡邊祐一中学校長の祝辞を真剣に聞き入る卒業生の顔は、少しだけ大人びて見えました。卒業生たちは、この春から真新しい高校の制服に着替え、小峰の丘で新たな三年間をスタートさせます。さらなる成長に期待します。

(総務教頭 小林 悟)

卒業生の大学進学状況

—今年度も一八九名が

大学・短大に合格—

本校では一月末までに、指定校推薦・A O入試・公募制推薦などで、既に一八九名の三年生が大学・短大に合格しています。この数は、在籍している三年生・四七八名の約四十%にあたります。指定校推薦での合格者は約十九%、A O入試・スポーツ推薦などでの合格者の合計が約二十%と、今年度はA O入試・スポーツ推薦での合格者が、指定校推薦の合格者と同様に増えました。特にA O入試での合格者は五十七名で、昨年より厳しい状況になっています。

指定校推薦では、東京理科大学・明治大・成蹊大など大学に八十六名、短大に六名が合格しています。A O入試・スポーツ推薦等では、青山学院大・立教大・法政大などの私立大学に八十七名、短大に九名の合格者が出ています。合格した生徒は、各大学から入学前教育として多くの課題が出され、真剣に取り組んでいました。最近では、三月まで指定校推薦やA O入試を実施している大学もありますので、これから受験する三年生には、確認をして欲しいと思います。

一月二十日(月)に本校で行われた自己採点には、一三〇名が出席しました。志願者・受験者・自己採点参加者ともに、前年度とほぼ同じ人数でした。

さて一般入試ですが、昨年十二月二十二日(日)に実施された神奈川大の給費生試験では、十一名が一般合格しました。また、二月から本格的に私立大学の一般入試が始まり、過年度生を含め、多数の合格者の吉報が毎日のように届いています。私立難関大学や国公立大学は二月中旬以降が本番です。

近年、在校生の約半数の生徒が推薦入試・A O入試を利用して出願いたします。ほとんどの大学は専願での出願になりますので、しっかりと調べて大学を受験しなければなりません。各大学では、新二・三年生に対して、三月からオープンキャンパスを開催します。各自で大学見学に行くことで、学生の雰囲気や図書館・研究施設を体感することが大切です。志望する学部学科を吟味する良い機会になります。さらに、複数の大学を比較するところから見えてくるものもあります。早くから情報収集をすることが必要です。オープンキャンパスに参加しないと受験できない大学もありますので、注意が必要です。

本校では、指定校推薦を考えている生徒に対し、オープンキャンパスに参加するように義務づけています。

二〇二〇年から、入試改革が実施されます。入試の名称が「A O入試」↓「総合型選抜」、「推薦入試」↓「学校推薦型選抜」、「一般入試」↓「一般選抜」、「大学入試センター試験」↓「大学入学共通テスト」と変わります。さらに今まで出願書類や面接だけで合否判定されていた入試についても、小論文や口頭試問、共通テストなどが必須となっています。生徒や保護者の中には困惑されている方も多くいると思いますので、本校では、保護者対象の講演会を、五月に予定しています。最新の入試情報を聞いていただき、早めの対策をしてもらいたいと考えています。生徒に対しても三月以降に、随時希望者の講習会を開いていく予定です。

進路指導室では、過去の面接資料を提供したり、面接のアドバイス等を行ったりしています。今年度も、推薦入試を受ける生徒に大いに利用・活用してもらいました。さらに、来年度も学年ごとに進学ガイダンスを予定しています。いろいろな大学の先生と直接話をする機会を作っていきますので、生徒には目標とする志望校を早め決めたいと思います。

今年度の大学・短大の最終的な入試結果は、来年度、最初に発行される広報でお知らせします。ご

期待ください。

(進路指導主任 入野 功)

専門学校進学、就職状況

専門学校には、一月までの間に一〇八名が合格しています。これは三年生全体のおよそ二十三%に相当します。また、一〇八名のほとんどの生徒が二学期中に進路を決定し、その約九十二%にあたる九十九名が、A O・公募推薦入試での合格になっています。また、分野別でみると、医療看護系に進学する生徒が多く見られました。

書類基準では成績はもろろんのこと、出欠席の状況や基本的な生活習慣が確立されているかなどを重視する傾向があります。早い時期に、受験を意識した生活を心がけることが大切です。

(専門学校指導主任 綱島陽介)

学生側の売り手市場が続く就職戦線ですが、近年企業が高卒者に注目をしています。そのような状況下で、本校の就職活動がスタートしました。そして二十名の生徒が希望企業(J R東海、財務省印刷局など)に内定しました。

また、公務員関係でも、二名(警視庁、神奈川県警)が合格するなど好結果となりました。

(就職指導主任 松井一郎)



高等学校一・二年生 秋季遠足 大学見学と芸術鑑賞

―文理コースより―

今年度より、一年生秋季遠足は、「大学見学」と「芸術鑑賞」の二本立てで行っております。

「大学をイメージしやすくし、より具体的な進路学習に結びつけること」、「ミュージカル鑑賞を通して、『本物』を体感すること」を目的に実施しました。

以下、文理コースからの報告です。（総務部）

令和元年十月二十五日（金）、文理コース第一学年では、午前に大学見学（立教大学と國學院大學、午後には劇団四季のミュージカルを鑑賞しました）。

当日は朝から大雨で、公共交通機関にも遅れが見られましたが、集合時間に遅れる生徒は少なく、大きな混乱もなく実施することができました。

立教大学では、本校のOGである二人の現役立教大生が、國學院大學では、キャンパスツアー担当の現役学生が、それぞれ大学やキャンパスの説明、見学の引率をしてくれました。立教大学では、特にキャンパス内にあるチャペルを見学した際、生徒たちは感激した面持ちで説明に熱心に耳を傾けて

いました。國學院大學では、キャンパス内にある博物館に案内していただき、考古学・神道学・校史の三つのテーマに沿った展示物を堪能することができました。二期に入り、文理コース一年全体で学部学科調査を行っていたので、生徒たちにとっては大きな刺激となり、今後の進路選択に向けてたいへん有意義な時間を過ごすことができたと感じています。

午後は夕留に移動して劇団四季によるミュージカル「アラジン」を鑑賞しました。専用劇場ということで大規模な装置や臨場感あふれるサウンドに圧倒されると共に、役者の豪華絢爛な衣装に魅了されました。生徒たちは、特にアラジンとジャスミンが魔法の絨毯に乗って大空を舞う幻想的なシーンが印象に残ったようで、アラジンの世界に引き込まれて感激した様子でした。

今回の大学見学は生徒たちにとって、三学期に行う「第一志望宣言」に向けて大いに参考になったことと思います。また、観劇により磨かれた感性を、今後の学校生活の中でも活かしてくれることを期待したいと思います。

（文理コース一学年主任 小池 進）

高等学校生徒会行事 三年生送別会（豚汁会）

一月三十一日（金）、三年生送別会（豚汁会）を実施いたしました。天気が非常に良く、早朝からの準備も、春の日差しのような暖かい中での作業になりました。

まず送別会前日、生徒会役員と送別会実行委員は準備で大忙し。

「大根が意外と重たい！」「一本しか持てない！」「皮が上手に剥けない！」などと言いながら、運搬・切り分けなどの作業を行いました。私は里芋を担当していたグループと一緒に作業をしましたが、生徒は様々な形や量に苦戦しながら、周りにいる仲間と試行錯誤を繰り返し、作業に取り組むことができました。

当日は早朝から大鍋四つ分の豚汁づくりです。お鍋に野菜を入れるだけでも、非常に重く、バランスを崩さないよう慎重に行いました。いつもの料理とは一味違う、大掛かりな作業をちよつと楽しみなながら、愛情をこめて、一つひとつの作業を丁寧に行うことができました。作り終わった後の「先輩たち、喜んでくれるかな？」と言った表情は、完成させた達成感と自信に満ちた、満面の笑みでした。

そんな後輩の気持ちをしっかりと受けとめるかのように、四つの大鍋の前に並んだ三年生は、高校生活の集大成を迎えた非常にすがすがしい顔をしていました。後輩か



ら手渡された豚汁を片手に、友人たちと輪になって食べていたり、実行委員の中に親しい後輩を見つけ、笑顔で話しかけていたり。「おいしい！」「という言葉を繰り返しながら、楽しいひと時を過ごしていました。

最後に、送別会実施にあたりまして、多くの方にご支援、ご協力を賜りました。この場をお借りし、感謝申し上げます。

（生徒会顧問 石田美咲）

中学校行事

音楽会

十一月九日(土)、本校体育館において中学校音楽会が開催されました。この音楽会はコンクール形式で行われ、毎年変わる課題曲と各クラスで決めた自由曲の二曲を演奏します。今年度の課題曲と各クラスの自由曲を紹介いたします。

- 課題曲「365日の紙飛行機」自由曲
- 中一一 「君をのせて」
 - 中一二 「大切なもの」
 - 中二一 「桜ノ雨」
 - 中二二 「春愁」
 - 中三一 「YELL」
 - 中三二 「友へ旅立ちの時」

各賞の受賞クラス・受賞者を紹介します。

- 金賞 中三二
- 銀賞 中三一
- 銅賞 中二二
- 最優秀指揮者賞
課題曲 中村帆希(中三一)
自由曲 渋谷郁豊(中三一)
神戸 稜(中三一)
- 最優秀伴奏者賞
課題曲 片倉千遥(中三一)
自由曲 石田優太(中三一)
- 課題曲「365日の紙飛行機」

はNHK連続テレビ小説「あさが来た」の主題歌として制作された



AKB48の楽曲です。一年生は試行錯誤しながらも、練習の取り組み方を先輩の背中を見て学び、元気な合唱を披露して

くれました。二年生は自由曲が歌詞の多い曲だったため、暗譜に苦労した様子でした。しかし、本番ではその苦労を感じさせない堂々とした歌声で、来年はさらに楽しみです。三年生は他の行事などで時間のない中、曲の細部までこだわり工夫を凝らし、最上級生としての意地が感じられた合唱でした。最後になりましたが、審査にご協力くださいました小峰会役員の方々をはじめ、たくさんの方々の皆様にご来場いただき、ありがとうございました。温かいご声援をいただいたことは、生徒たちの今後の励みになったことと思います。心より御礼申し上げます。

(中学音楽会担当 有泉香里)

小田原市「中学生の主張」参加

十二月七日(土)に、小田原市生涯学習センター・けやきホールにて、令和元年度青少年と育成者のつどい・第三十四回中学生の主張発表が行われました。この主張発表には、小田原市内の市立中学校十一校と本校を合わせた十二校が参加し、各校における優秀作品の作者各三名が学校代表として出



席しました。

本校からは、九月七日(土)にスカイホールで行われた、相洋中学校主張発表会で最優秀賞に選ばれた矢田龍太郎(中三一)、優秀賞に選ばれた田中智(中二二)(二年一組)、窪嶋そら(中二二)の三名が出席し、矢田が本校の代表としてステージに上がって主張発表を行いました。矢田の作品は「令和の時代が来た」というタイトルで、令和という新しい時代を迎えたことをきっかけに、積極的に他者に奉仕し貢献することに挑戦し始めたこと、それによって自分自身の成長を実感し、視野が広がり、世界で必要とされる人間になるという大きな目標を持って努力をすることを宣言した作品でした。小田原市長をはじめ、各中学校の校長先生や代表生徒とその保護者の方々、その他大勢の来賓を前にしても堂々と胸を張って語りかける姿が印象的でした。

なお、田中の主張「外国人との接し方」、窪嶋の主張「なぜ勉強するのか」も、本人による朗読がラジオ収録され、矢田の主張発表と合わせてFMおだわらの番組内で放送されました。

本校では、「中学生の主張発表」を国語科の授業の一環として全校生徒が取り組んでいます。来年度も、全校生徒一人ひとりが中学生ならではの熱い思いを語り、聴く人々の心を動かすような主張を行ってこれることに期待しています。

(中学生生徒指導部 森田康弘)

クラブ活動報告

高校美術部

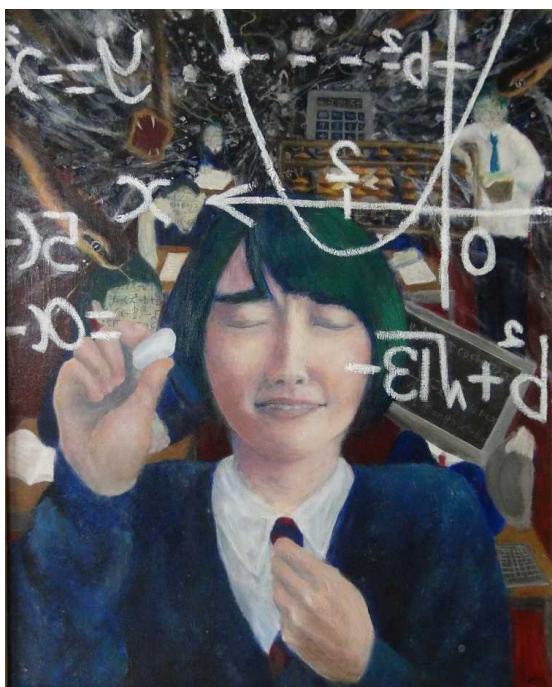
神奈川県高等学校総合文化祭第六十六回神奈川県高等学校美術展が十二月十日(火)～十五日(日)の会期で、神奈川県民ホールギャラリーにて開催されました。本校美術部は、平面部門五点、立体部門二点、高文連ポスターデザイン部門二点、集録誌表紙デザイン部門二点の合計十一作品を出品いたしました。本年は県内一〇八校から七六五点の出品があり、部門別に各賞の受賞を競いました。その結果、平面部門で岡本美樹(文理三一・二・酒匂中・表紙作品)が奨励賞を

受賞しました。本校はここ数年、複数の受賞を頂いておりましたが、残念ながら今年の受賞はこの一点のみに留まりました。しかし受賞は逃したものの、高田知咲(文理二一・五・千代中)の作品が県教育局展示作品に、また笠野乃佳(特進一一・二・大磯中)の作品が八月に開催される神奈川県文化フェスタ出品作品にそれぞれ選出されました。また、第六十四回全日本学生美術展が二月十三日(木)～二月十九日(水)の会期で、東京都美術館にて開催され、本校美術部から八点の平面作品を出品しました。その結果、柏木美祐(特進一一・二・城北

中)、笠野乃佳(特進一一・二・大磯中)の制作した油彩作品二点が佳作入賞を果たしました。二名しか在籍していない一年生部員がそろって入賞したということに、今後の活躍が期待できる結果となりました。少人数ながら、各コンクールにおいて着実に結果を出せているのは、日頃の取り組みの成果だと感じています。今後もこの取り組みを継続していきたく考えています。で、応援よろしく願います。(美術部顧問 伊勢岳彦)

高校吹奏楽部

今年度の吹奏楽部は、吹奏楽コンクールにおいて、四年連続西湘支部代表として八月の神奈川県大会に出場し、二年振りとなる神奈川県代表としての東関東大会への推薦、並びに大会一位の団体に贈られる朝日新聞社賞を受賞しました。また九月の東関東大会では「銀賞」を受賞、十一月には二年連続となる日本管楽合奏コンテスト全国大会出場といった創部以来最高の結果となり、飛躍の年となりました。



佳作 柏木美祐(特進 1-2)『誰か助けて!』



佳作 笠野乃佳(特進 1-2)『五感を研ぎ澄ませて』



なお、吹奏楽コンクール上位大会出場という目標と並ぶ、もう一つのメインの活動であり、一年間の活動の集大成でもある定期演奏会があります。昨年同様に「小田原市民会館」での開催を予定しています。お時間ございましたら是非会場へ足を運んでいただければ幸いです。

＊令和二年三月二十日(金・祝)に開催予定でしたが以下の日程に延期となりました。

○会場 小田原市民会館大ホール
○日時 令和二年八月三十日(日)

開場十六時三十分
開演十七時 入場無料

最後に、応援・ご協力くださいました、保護者会の皆様、同窓会の皆様、教職員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

(吹奏楽部顧問 井上 哲)

高校 和太鼓部

十二月十五日(日)伊勢原市民文化会館大ホールにて、令和元年度神奈川県高等学校総合文化祭・第三十回郷土芸能発表会(主催神奈川県高等学校文化連盟・神奈川県教育委員会)が開催されました。この大会はこの八月に開催される第四十三回全国高総文祭・高知大会への出場権をかけたコンクール形式的な選考会でした。

大会では「荒波」と「花と風」の二曲を演奏しました。新曲である「花と風」は、部員が試行錯誤



しながら練習を重ねていきました。部員全員の力と気力をつぎ込んだ結果、県大会優勝となる知事賞を受賞しました。また全国大会出場を決め、昨年に出場を逃した分の雪辱を果たすことができました。

八月に行われる全国大会では、県代表として、躍動感にあふれ、より華のある演奏を披露したいと、部員一同練習に励んでまいります。引き続き、ご声援の程よろしくお願いたします。

(和太鼓部顧問 田島和幸)

中学 柔道部

第四十二回全国高等学校柔道選手権大会県予選が、一月十二日(日)に神奈川県立武道館横浜市港北区において開催されました。73kg級 佐藤龍道(進学二―二)が第三位入賞しました。

また、中学生も神奈川県新人大会が二月一日(土)に開催されました。50kg級 川崎楓太(中―一)が三位入賞しました。

【卒業生の活躍】

昨年の十一月二日(土)に、講道館杯全日本柔道体重別選手権大会が千葉ポートアリーナで開催され、66kg級 相田勇司(國學院大學二年・一貫コース卒業)が出場しました。決勝では前年同大会で惜敗した警視庁の選手に粘り勝ちし、優勝しました。その後十一月二十二日(金)に行われた、グラندドラマ大阪に出場し、外国人選手に圧勝して三位入賞しました。名実ともに日本のトップ選手として活躍しています。こうした先輩の活躍に、中学・高校の柔道部員も刺激を受け、ますます頑張ってくれることを期待します。

最後に、学園・保護者会・同窓会・柔友会・柔道部卒業生の保護者の皆様には、多くのご支援、ご声援をいただきありがとうございます。今後も全国・関東大会を目指して頑張りますので、よろしくお願申し上げます。

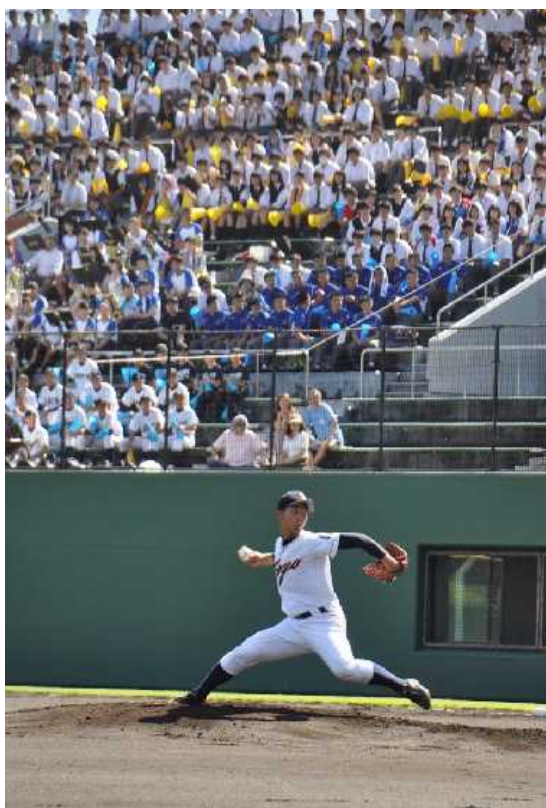
(柔道部顧問 込山 清)

高校 野球部



令和元年度神奈川県秋季大会が、九月七日(土)〜十月六日(日)の日程で、光明相模原高校グラウンド、保野球場、横須賀スタジアム、保土ヶ谷球場にて行われました。

- 二回戦 八―七 光明相模原高
- 三回戦 七―〇 横須賀総合高
- 四回戦 七―四 橘学苑高
- 準々決勝 六―二 横浜商高
- 準決勝 一―十二(七回コールド負け) 東海大相模高



秋季神奈川県大会 ベスト4

秋季の地区大会は、危なげないゲーム展開で県大会の本選に出場しました。県大会初戦、相手の光明相模原高は、夏の大会の主力選手が数多く残っており、経験を積み、自信をつけて秋季大会に臨んでいました。そのため初戦ではありましたが、非常に苦しいゲーム展開でした。前半は追いかける展開で、後半によく追いつきましたが、相手も粘り強く戦っており、なかなか流れを掴めずにいました。最後の最後に、選手全員で決勝点を挙げ、勝利することができました。「粘り強さ」で初戦を勝てたので、四回戦の橘学苑高戦、準々決勝の横浜商大高戦でも粘り強く戦うことができました。しか



し準決勝の東海大相模高戦では、夏の選手権大会に続き、大きな壁にはじき返されてしまいました。「絶対に関東大会に出場し、選抜甲子園に出場したい」という一心で日々を過ごし、東海大相模高戦

に乗り込んだので、悔し涙を流している生徒が多くいました。この涙の味を忘れず練習に打ち込み、また挑んでいきたいと思っております。

準決勝は全校応援ということ、野球部の生徒たちにとって良い経験になっただけでなく、今年の夏の大会に向けて、大きな力になりました。また応援スタンドでは、球場に響く校歌や、皆で肩を組み力いっぱい歌った応援歌が相洋全体を一つにした、という声が多かったです。これから始まる、春季大会・選手権大会では、生徒や教職員をはじめ応援してくださるすべての方々には本校野球部が大いに活力を与え、卒業生・在校生が母校を誇らしく思えるように全力で戦っていきたくと思います。(野球部部长 吉成 徹)

高校 陸上競技部

第七十二回神奈川県高等学校駅伝競走大会が、十一月二日(土)、小田原市宮城山競技場で行われました。例年、丹沢湖周辺コースにて実施されている大会ですが、台風十九号の土砂崩れの影響で、コースの安全確保が困難になったため、襷を使用せず、トラックレースの合計タイムで争う、異例の競技形式となりました。結果は、昨年を上回る二時間八分二十六秒で、第三位となりました。これにより、第七十二回関東

高等学校駅伝競走大会の出場権を得ました。



(県大会出場選手)

- 大野悠翔 (文理二一・成瀬中)
- 濱口直人 (特進二一三・壺坂高)
- 熊井凌誠 (進学三一三・壺坂高)
- 高瀬 凪 (文理三一三・領家中)
- 石塚颯太 (特進二一三・小鮎中)
- クレイアーロン竜波 (特進三一三・片瀬中)
- 平島龍斗 (文理一一二・綾北中)

十一月十六日(土)に行われた関東大会は、当初、丹沢湖周辺コースで実施される予定でした。しかし、復旧が間に合わず、裾野市運動公園陸上競技場において、県大会と同様の競技形式で開催されることとなりました。強豪校が出場する中、優勝校のみが全国大会の切符を手にするという、駆け引きの多いレース展開となり、結果は二時間九分三十秒で十八位でした。

第七十三回神奈川県実業団駅伝競走大会が二月二日(日)、丹沢湖周辺コースにて行われました。本大会は、実業団選手と一緒にレースに臨むことができる大会です。一区から良い流れをつくり、二区の平島龍斗(文理一・二・綾北中)が区間一位の走りで見事に立つと、以降も手堅くつないでリードを守り切り、全体三位でゴールしました。記録は、一時間三十二分八秒の大会新記録で、高校の部において優勝しました。一・二年



生のみで編成され、主力メンバーを入れずにこの結果を残せたことは大きな成果です。次年度の高校駅伝に向けて、今後も精進していきますので、引き続き応援よろしくお願い致します。



(出場選手)

- 石塚颯太(特進一・三・小鮎中)
 - ◎平島龍斗(文理一・二・綾北中)
 - 濱口直人(特進一・三・犢瀨高)
 - 古山拓輝(文理一・二・奈良中)
 - 田中大稀(文理一・二・奈良中)
 - ◎は「区間賞」
- (陸上競技部顧問 馬場紅海)



高校生徒会 チャリティーコンサート 文化祭収益を募金



山口昇士箱根町長とともに

本校では、毎年チャリティー活動やボランティア活動に積極的に取り組んでいます。海岸美化清掃などの活動、小田原駅での啓蒙活動キャンペーン参加や募金活動などです。今年度は六月に実施したチャリティーコンサートとの寄付金と、九月に実施した文化祭参加クラス・クラブからの収益金が、合わせて¥352,334になりました。

この寄付金を持って、今年度はまず七月十八日(木)に「社会福祉のために」(神奈川県新聞厚生文化事業団)へ、次に十一月十三日(金)に「小田原市歳末助け合い」(小田原社会福祉協議会)へ、さらに十二月十六日(月)には、「台風十九号被害義援金」(箱根町役場)へ生徒会生徒が訪問してきました。

各所を訪問した際には、職員の方から寄付や募金がどのように活かされているか資料や写真を交えながら説明していただきました。特に十月の台風十九号による箱根町での被害は、私たちの身近なところで起こった天災であり、山口昇士町長からの被害の様子、現在の復旧状況、今後の復旧スケジュールについての説明を、自分たちのこととして真剣に聞き入っていました。



勉強やクラブ活動に追われ、日々忙しく過ごしている相洋生ですが、ボランティア活動や寄付など自分たちのやれることを続けることで、今後も地域社会との繋がりを深め、息の長い活動を続けていきたいと思えます。

最後になりますが、募金にご協力いただいた方々や、活動を支援してくださった関係各位に感謝申し上げます。
(生徒会指導主任 富塚博史)

高校 美化清掃活動



今年度の校外美化清掃活動は、前期の御幸の浜海岸清掃が、五月二十三日(木)に前期美化委員八十八名、三年生ボランティア生徒五十名の参加で行われました。昨年引き続き、同窓会の方々には海岸清掃のほうにも参加していただきました。今年度は天候の関係で例年よりも海岸に打ち上げられてい

たゴミの量が比較的多く、多くのゴミを集めることができました。後期の学校周辺、正門から上庭までの歩道の清掃は、十二月六日(金)に後期美化委員五十四名とボランティア生徒五十三名で実施しました。例年通り多くの落ち葉が集まり、歩道がきれいになりました。生徒たちも達成感を感じたようです。

美化委員会による校外美化活動も十一年目を迎えました。ボランティア参加希望の生徒も年々増え、ここ数年は各クラス五名以内と人数を制限するほどです。指定された場所に行き、用意された用具を使って掃除をするという手軽さも人気の理由だと思われまます。本来ボランティアとは「自発的な意志に基づいて、人や社会に貢献すること」と定義されています。そういう意味ではこの校外美化活動は、「ボランティア体験」に過ぎません。この活動をきっかけに、生徒たちには必要とされている場に行き、真の「ボランティア活動」ができるようになってもらいたいと思います。

(生徒指導部 原 教子)



大学受験講座

大学受験の強い味方！

— 大学受験講座の取り組みと 来年度へ向けてのラインナップ —

二号館三階にある大学受験講座運用室は、相洋高校内における塾・予備校です。来年度は、今年度以上の充実を図りつつ、ライブ講座とスタディサプリを中心に、相洋生の日々の学習や受験勉強を支えてまいります。運用室前には、早朝と放課後に利用できる自習室も用意しており、講座以外にも勉強へ専念できる環境を整えています。これまで多くの卒業生が、講座や自習室を利用して勉学に励み、希望の進路を実現してきました。来年度も大学受験講座運用室の担当者一同は、相洋生が日々勉強に集中できる環境作りを行ってまいります。

ライブ講座

予備校講師・富岡拓郎先生による英語の授業をはじめ、本年度は新たに国語・数学も開講いたします。

英語については来年度も、三年生には一二〇分授業を週二回、一年生と二年生にはそれぞれ九〇分授業を週一回放課後に行います。富岡先生の相洋高校での指導は、

来年度で十五年目を迎えます。

相洋生の学力を踏まえた指導によって、受講生は三年間で受験に通用する英語力を身に付けることができます。受講生からは非常に高い評価を得ており、来年度も多くの相洋生に受講してもらえれば幸いです。

数学、国語については今年度からの新設でしたが、次年度は生徒のニーズにさらに沿ったものとなるよう、内容を充実させる予定です。普段の授業理解のサポートから大学受験への橋渡しを目指しています。

四月には無料体験授業を実施します。また、五月以降は一回の無料体験ができるようになっていきます。ぜひ、参加してみましよう！

スタディサプリ

スマートフォンやタブレット、パソコンで受講する映像授業です。個人のスマートフォンやタブレット、自宅のパソコンでも受講できます。大学受験講座運用室にてタブレットの貸し出しもしていますので、自分の時間や学習スタイル

ルに合わせた利用が可能となっております。講座は、中学での学習内容の復習から受験対策まで幅広くカバーしており、様々な志望に対応しています。ウェブ上では大学に関する情報や、大学とセンター試験の過去問題と正答の閲覧や印刷ができます。企画・運営を行っているリクルートによると、今後様々なサービスを追加していくとのことで、総合的な学習支援ツールとして活用できます。

(大学受験講座運用室長 佐藤大志)

訃報

久野雅寛先生



明徳学園前理事長久野雅寛先生が令和元年十一月逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



編集後記

一年ほど前から、ある程度まとまった形の旅を自分に課すようにしている。だいたいは、自分の住んでいる多摩地区から相模湖周辺、遠くても青梅かその先の奥多摩湖あたりが中心だが、時々、伊豆半島の大室山や城ヶ崎海岸、さらに浜松の砂丘や浜名湖、紀伊半島那智勝浦、遠く鳥取の皆生（かいけ）温泉や愛媛の奥道後、九州宮崎さびの高原まで旅の舞台となることもある。

とかく人間は一つの場所から外へ出ないでいると、そこが世界のすべてになってしまつて、己の知識や教養の浅さに気づかなかつたり、いつの間にか寛容な心を失つて人が信じられなくなつたりするものだ。だから、いろんな場所の、いろんな物語を見聞きし、それを吸収しながら、広い視野と深い教養を養い、そして正しいこととそうでないこと、許すべきことと許してはいけないことを見極めて、人間として生きることの意味を常に自分自身に問い続けていきたいと思っている。

昨年十月頃、仕事の合間をぬって半年ほどかかった長い旅を終え、二回目の旅に取りかかったが、これが思いのほか早く終わり、少し息抜きをかけてから、今、三回目の旅に取りかかる準備をしているところだ。出発点は、乗馬クラブのある練馬周辺。今回はバイクでなく、馬でスタートです。

(学園広報編集担当 三野知之)

発行日／令和2年3月22日

発行所／小田原市城山4-13-33

学校法人明德学園相洋中・高等学校

発行責任者／武井 清忠

TEL(0465)22-0211\33・23-0211

編集者／学園広報担当 購読料 100円

相洋中高 チャリティーコンサート

